

第19号(2016年12月20日)
発行:「広島大学マスターズ広島事務局」

【目次】

1. 2016 年秋の例会報告
2. 「東千田未来創生センター」における本会提案の事業計画について
3. 第7回総会・懇親会報告
4. 計報

1. 2016 年秋の例会報告

2016 年度の秋の例会として、11 月 15 日(火)、中国醸造(株)見学会を開催した。夕方から寒くなるといわれた 1 日だったが、さいわい日中は好天に恵まれたこの日、午後 2 時に JR 廿日市駅南口に集合したのは最終的に 12 名だった。そこから廿日市の街中を海岸に向かって、目印になる昔の蒸留塔建屋を目指して歩き、10 分ほどで到着した。正面入口では、昨年作られたという杉玉がわれわれを出迎えてくれた。



昔の蒸留塔建屋



正面入口の杉玉

早速、会社内の直売ショップで同社の概要や歴史について説明を受け、ビデオを鑑賞した。同社はもともと 1918 年(大正 7 年)に醸造用アルコール・メーカーとして誕生したこと、創業以来、焼酎を製造し続けてきたが、他に日本酒、ウイスキー、リキュールなどあらゆる酒類の製造免許を得て製造してきた、1967 年に日本酒としては最初の紙パック入りの「はこさけ一代」を発売したことなど、興味深い内容だった。筆者にはとりわけビデオの中で、小規模メーカーが生き残る道は多角化であると社長が述べていることが、印象的だった。



会社概要説明



単式蒸留器と陶製斗瓶

その後、製造工場を見学した。以前は使われていた単式蒸留器や陶製斗瓶のわきを通して先ず旧蒸留塔建屋の中へ。巨大な蒸留塔が6階まで突き抜けている。かつてはこの中をアルコールの蒸気が渦巻いて走っていたのであろうか。次いで現在操業中の工場を見る。西条の日本酒の醸造所とはまた違う芳香が漂う工場内では、ちょうど芋焼酎の仕込みの最中で、県内産の紅あずまというサツマイモが蒸し器から押し出されてくるのを社員がほぐして脇のベルトコンベアーに移し、イモはそれに乗って上の方にあるタンクへと運ばれているところだった。このイモは甘みが強いのが特徴だとのこと、実際に食べて見るとその通りだった。ここで「はなたれ(初垂れ)」を試飲する。蒸留初期の段階で蒸留器の垂れ口からとれるアルコール度数60度以上の液体を割り水して40度程度に薄めたものだというが、薫り高く刺激的な味であった。となりの部屋に移動して最新式連続蒸留器や仕込み倉を見て、再びショップに戻った。ここからは試飲タイム、参加者は皆それぞれに、さまざまな種類のお酒を楽しみ、お酒の購入も進んだ。最後に集合写真を撮って、16時ごろに見学を終えた。



芋焼酎の仕込み見学



全員集合

夜の懇親会は、参加者5名とちょっと少なかったのは残念だったが、バスセンター7階の源蔵で楽しい時間を

過ごすことができた。個人的な感想で恐縮だが、筆者のように文系の者にとっては理系の先生方のお話を伺うことができたことは、たいへんよい経験になった。これぞマスターズの強みといえようか。

この例会を企画するに当たって、幹事会では鞆の浦、宮島、大山祇神社など他にもいくつかの案が出されたが、昨年の松江旅行(1泊2日)では参加者が少なかったことを踏まえて、あまり交通費が高くはない日帰り可能な近場であることを重視して、今回の場所を選んだ。参加者のほとんどにとっては、焼酎の醸造過程を見るのは初めての経験であったようで、あまり知られていない地元企業を見学できたことは、それなりの意味があったと思っている。

[文責：植村泰夫、写真：鈴木盛久]

2、「東千田未来創生センター」における本会提案の事業計画について

東千田未来創生センター事業担当幹事 松水征夫

『会報』第18号で報告させていただきましたように、来年度から本会は、東千田未来創生センターにおいて開講される社会人大学院生のための教養科目「大学院共通授業科目」を提供するという教育・研究プロジェクトを提案し、採択されたことで、東千田未来創生センター4階のプロジェクトルーム(4-4号室)とミーティングルーム(4-6号室)の利用が認められることになりました。東千田未来創生センターに活動拠点が与えられたことで、「大学院共通授業科目」を来年度から提供する準備を進めて来ました。



今年3月に完成した東千田未来創生センターの建物

広島大学の大学院共通授業科目は、平成22年度から各研究科及び学内のセンター群が独自に、複数の研究科の大学院生が履修できる授業科目として提供されているものですが、われわれは大学を退職した身であることから、われわれが独自に授業科目を提案することはできません。しかしこのたび東千田未来創生センターでの社会人を対象とした大学院の開講に際して、大学側から広島大学マスターズに対して協力を求められたことで検討を始めました。具体的には、われわれが独自に社会人大学院生のための教養科目のシラバスを作成し、大学院課程会議に提案して承認されれば、大学院の正規の授業として認められるという制度に則って、マスターズでは社会人大学院生向けの教養教育科目の提供を検討してきました。

来年度から東千田未来創生センターで開講予定の社会人大学院は、文学研究科の「学び直しプログラム」、社会科学部研究科の法政システム専攻の「医療アナリストプログラム」、社会経済システム専攻の「環境・エネルギー問題等アナリストプログラム」の3つの社会人大学院であることに鑑み、10月1日開催の本会の幹事会で、「学問と社会」と「健康生活科学」という2つの授業科目を提供することを決めていただきました。それに伴い、10月18日付で2つの授業科目の開講に協力していただける方の情報提供を求めるアンケート調査を全会員対象にして実施させていただきました。協力可能と申し出ていただいた方の情報に基づき、次のようなシラバスを作成しました。

○授業科目名「学問と社会」

科目区分：基礎的教育科目

開講部局：広島大学マスターズ

開講キャンパス：東千田

開講期：1 年次生 前期

対象学生：社会人大学院生

授業の目的・概要等：現代の社会問題に学問の進歩が果たした役割について講義する。

担当教員名（元所属、講義題目名）：

植木研介（元文学部）： ①学問と文学研究

田中久男（元文学部）： ②学問とアメリカ社会（アメリカの競争社会において、学問がどのような意味を持っているのかを考える）

田中春彦（元教育学部）：③科学と社会—エネルギー・環境問題を中心に—

於保幸正（元総合科学部）：地質学と社会はどのような関係にあるのか

④地球環境変遷と生物の進化

⑤地殻変動と環境、岩石の風化と災害、資源の活用

中田 高（元文学部）：活断層と地震

⑥活断層から地震を探る

⑦活断層と防災

廣川 健（元工学部）： ⑧バイオテクノロジーと分析化学

今村 詮（元理学部）： ⑨計算化学（昔実験でしか決められなかった分子の構造や化学反応の道筋が計算機と量子科学の手法の進歩により、予測できるようになってきていることを実例で示します。）

大杉 節（元理学部）： ⑩宇宙の誕生と死

渡邊敏正（元工学部）：コンピュータの素顔とアルゴリズムデザイン

⑪コンピュータの機能（ハードウェア）と情報処理の仕組み（ソフトウェア）

⑫情報の収納方法（データ構造）や処理手順（アルゴリズム）

平木秀作（元経済学部）：⑬自動車の生産管理

三枝省三（元工学部）： ⑭失敗から学ぶイノベーション～アップルとソニーの比較から～

⑮IoT による破壊的イノベーション

成績評価の基準など：授業への積極的な参加の程度（50%）、レポート（50%）により、評価します。

○授業科目名「健康生活科学」

科目区分：基礎的教育科目

開講部局：広島大学マスターズ

開講キャンパス：東千田

開講期：1 年次生 後期

対象学生：社会人大学院生

授業の目的・概要等：高齢化社会における健康生活分野の課題について講義する。

担当教員名（元所属、講義題目名）：

渡邊一雄（元総合科学部）：①高齢化社会における健康生活

②これからの感染症問題

瀬山一正（元医学部）： ③現代食の問題点

④食を通じた痛風の予防法

渡邊敦光（元原医研）： ⑤日本人の食生活の変化

⑥食生活の改善による生活習慣病やがんの予防

田中春彦（元教育学部）： ⑦生活の中の化学

碓井 亜（元医学部）： ⑧加齢に伴う性腺機能低下（LOH 症候群）

三嶋 弘（元医学部）： ⑨眼の老化（高齢者時代に伴い増加する眼疾患、白内障、緑内障、加齢黄斑変性等について講義する。）

星 正治（元原医研）：放射線の人体への影響とリスク評価の意義

⑩放射線の基礎と広島・長崎の被曝線量調査

- ⑪世界の被曝とその調査ーセミパラチンスク、チェルノブイリ、マーシャル諸島・福島など

武市宣雄（元医学部）：甲状腺癌について

- ⑫甲状腺癌の発生

- ⑬甲状腺癌の予防と医療（甲状腺ホルモンの働きを含めて）

井内康輝（元医学部）：がん検診について

- ⑭がんとは何か。がん対策の現状

- ⑮がん検診の有用性。がん対策の課題と将来像

成績評価の基準など：授業への積極的な参加の程度（50%）、レポート（50%）により、評価します。

上記のようなシラバス案を11月13日付で、われわれの教育・研究プロジェクトの大学内への提案窓口になっていた社会産学連携担当の理事・副学長の高田隆先生を通じて、大学院課程会議に提出していただくことにしました。

この提案を受けて、11月29日に東千田キャンパスの東千田地区支援室において、東千田未来創生センター担当の岡本修治副理事同席のもとに、大学本部教育室の原義孝教育部長から大学側の検討・準備状況について説明を受けました。原教育部長のお話の概要は次の通りです。

- （1）東千田未来創生センターで開講予定の社会人大学院について

来年度から文学研究科（1専攻）、社会科学部研究科（2専攻）がまず開講予定で、次いで総合科学研究科（1専攻）の開講が予定されており、東千田未来創生センターで開講予定の社会人大学院は当面4専攻になります。

- （2）大学内の組織改革について

大学院共通授業科目は、大学院課程会議で審議して認められることになっていましたが、今年7月に学士課程会議と大学院課程会議が一緒になり、「教務委員会」に改組されたことで、広島大学マスターズから提案された大学院共通授業科目の開講に関する審議は教務委員会で行われることになります。

- （3）教務委員会で予想される検討事項

教育室と教務委員会委員長との事前の打ち合わせで、「マスターズの錚々たる先生方に変な興味ある講義を担当していただく提案となっていますが、折角マスターズの先生方に授業していただいても、現在の社会人大学院の開講状況から、受講者がいなくて開講されないという状況になることが懸念されることから、「学問と社会」は医歯薬保健学関係の学部生の1年次の教養教育科目という位置づけにできないだろうか。それが可能ならば、東千田未来創生センターで多くの学生の受講が可能となるのではないかと。」「健康生活科学」は東千田未来創生センターでの開講となっているが、霞キャンパスの医歯薬保健学関係の大学院生の選択科目として、霞キャンパスで開講することが可能であれば、受講者が確保できるのではないかと。」との意見が出されているので、あらかじめマスターズの先生方のご意向を確認したいために、本日の打ち合わせをさせていただきました。マスターズの先生方の意見をお聞きして、実施可能な原案を大学の教育室で検討し、教務委員会に諮ったうえで、承認された事項を大学側の最終的な要望として教務委員会の委員長名で、マスターズの先生方をお願いしたいと思います。

11月29日の大学本部教育室の原部長との打ち合わせで示されたこのようなご意見は、われわれの提案を真摯に受け止めていただいた結果で、私個人としては特に異論はありませんでした。マスターズの幹事会のメンバーにメールにてご報告した際にも、大学側の見解に反対のご意向はありませんでしたので、私方でも大学側からシラバスの変更依頼があれば、担当を引き受けていただいた先生とご相談の上、調整させていただき、柔軟に対応を考えたいと思いますので、講師の先生方には何卒よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

3. 第7回総会・懇親会報告

広島大学マスターズ広島の第7回総会は、2016年8月27日(土)にホテルグランヴィア広島21F「曙光」を会場に、次のとおり開催されました。出席者は正会員15名、協力会員2名、参与1名、計18名でした。議事録は次のとおりです。

- （1）議長の選出：井上代表幹事を選出した。

- （2）会員状況：総務担当の植村幹事が資料1に基づき報告し、承認した。

- （3）役員の改選：平成27年度の役員を幹事会で検討した資料2を総務担当の植村幹事が説明し、承認した。

- （4）平成27年度事業報告：総務担当の植村幹事が資料3に基づき報告し、承認した。

- (5) 平成27年度決算書： 会計担当の桑原幹事が資料4に基づき報告し、承認した。
- (6) 会計監査報告： 監査担当の幹事が所用で欠席のため、会計担当の桑原幹事から、監査を受けた結果について、「会計帳簿の記載は正確で、関係書類ならびに会計処理はすべて適正になされており、決算書のとおり相違がないことを確認していただきました」との報告があり、これを承認した。
- (7) 平成28年度事業計画（案）： 総務担当の植村幹事が資料5に基づき報告し、承認した。なお、東千田未来創生センターにおける東広島のマスターズと共同で運営する事業について、担当の松水幹事から追加説明があり、了承された。
- (8) 平成28年度予算書（案）： 会計担当の桑原幹事が資料6に基づき報告し、承認した。

なお、議事録中にある資料については「広島大学マスターズ広島」ホームページ(広島大学ホームページ左端の「校友会・同窓会」をクリックすると行き着きます)でご覧いただけますが、以下に本年度の事業計画に関する資料5(一部改変)を掲げておきます。

【平成28年度事業計画（案）】

- 1 新規入会会員の勧誘：平成29年3月末に広島大学を定年退職される教職員に入会案内を送付して新規入会の勧誘を行うとともに、幹事・会員により随時勧誘を行う。
- 2 第7回総会・懇親会の開催
日時：8月27日（土）16：00－18：00
会場：ホテルグランヴィア広島 21F「曙光」
- 3 例会： 年2回程度（春と秋）、広島市内及び近郊の観光地・史跡めぐり、施設や工場などの見学
- 4 懇親会： 忘年会または新年会を開催
- 5 広島大学から依頼のあった講座・事業などの担当
教養コア科目「平和科目」の授業担当：平成28年度は東広島キャンパスにおいて「平和と人間C－広島で学ぶ（原爆とは何だったか）－」を第2ターム(4学期制)で、東千田キャンパスで「平和と人間D－広島から未来に向けて－」を前期(2学期制)で担当
日韓理工系学部留学生向け予備教育事業の担当：日本と韓国の教科書の違いに鑑み、欠けたところ及び不十分なところを補うための予備教育を行うため、数学・物理・化学・生物の4科目について10月末から3月までの10週（各科目について週1回（90分））を東広島の広島大学マスターズと共同開講する。本会からは、物理と生物の2科目を担当
東千田未来創生センターにおける大学間・産業界等との連携による教育・研究プロジェクト「広島大学マスターズ社会連携講座」の平成28年度からの実施に向けての準備
- 6 NHK文化センター広島教室から依頼のあった講座の担当
NHK文化センター広島教室が春から開講する「私たちを生み育てた宇宙を読み解く」の講師を派遣
- 7 広島大学第10回ホームカミングデーへの参加
- 8 会報（メールマガジン）の発行：『マスターズ通信 News Letter』を、年に4回程度発行する予定
- 9 ホームページ、Facebook ページによる広報

4. 訃報

以下の3名の会員がお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りします(敬称略)。

足立正常（元教育学部）
津下健哉（元医学部）
渡辺勝俊（元事務部）

広島大学マスターズ広島事務局

〒730-0053

広島市中区東千田町一丁目1番89号

広島大学東千田地区支援室気付

(FAX) 082-542-6964

(E-mail) masters2@hiroshima-u.ac.jp